

平成29年3月期第2四半期(中間)決算のお知らせ

平成28年11月11日

株式会社T & Dホールディングス
(コード番号 8795 東証第一部)

太陽生命保険株式会社

大同生命保険株式会社

T & Dフィナンシャル生命保険株式会社

T&D保険グループ決算の概況

1. 契約業績

新契約年換算保険料は、金利低下による一時払商品の一部販売抑制・休止により前年同期から減少。ただし、分割払の医療・介護系商品の販売増加により第三分野新契約年換算保険料は138億円、前年同期から10.5%の増加。

保有契約年換算保険料は1兆4,791億円、前年度末から0.7%の増加。保有契約高は60兆6,922億円、前年度末から0.2%の増加。

2. グループ連結損益

親会社株主に帰属する中間純利益は482億円、前年同期とほぼ同水準。これは主に、円高等による外国証券の利息及び配当金等収入の減少や価格変動準備金繰入額の増加等があったものの、T&Dフィナンシャル生命において、外国為替連動型の一時払終身保険の損益が豪ドル金利低下に伴い改善したこと等による。

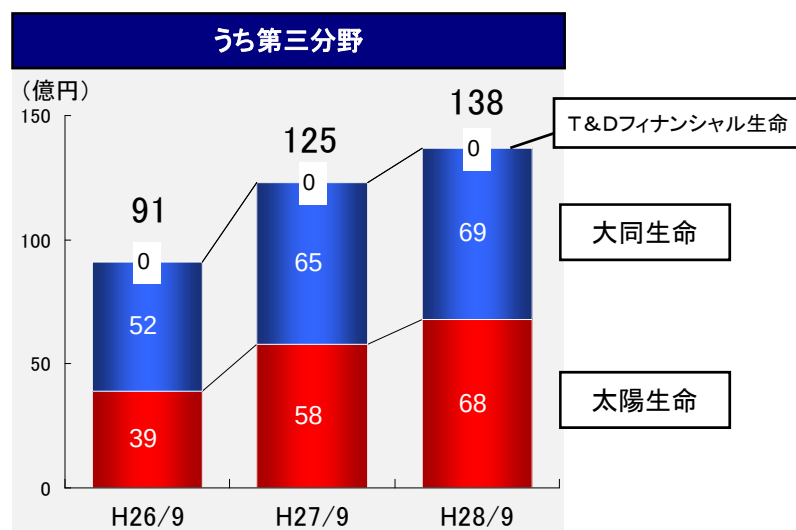
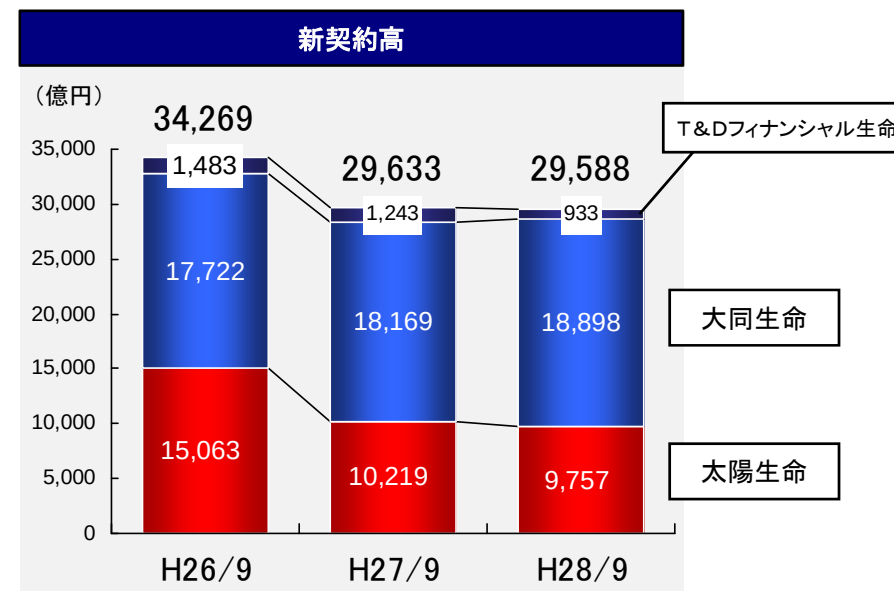
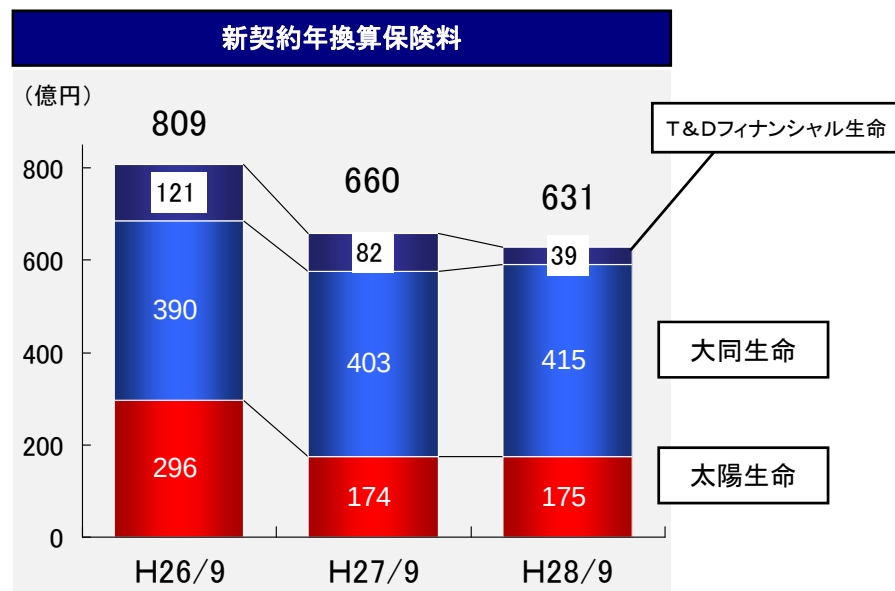
3. Group MCEV

生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つである市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV)は、新契約の獲得や金利上昇により当第1四半期末から大幅に増加し、前年度末とほぼ同水準まで回復。

4. 通期業績予想・株主配当

通期業績予想および1株当たり年間配当予想の修正はありません。なお、当中間期より中間配当(1株当たり15円)を実施します。

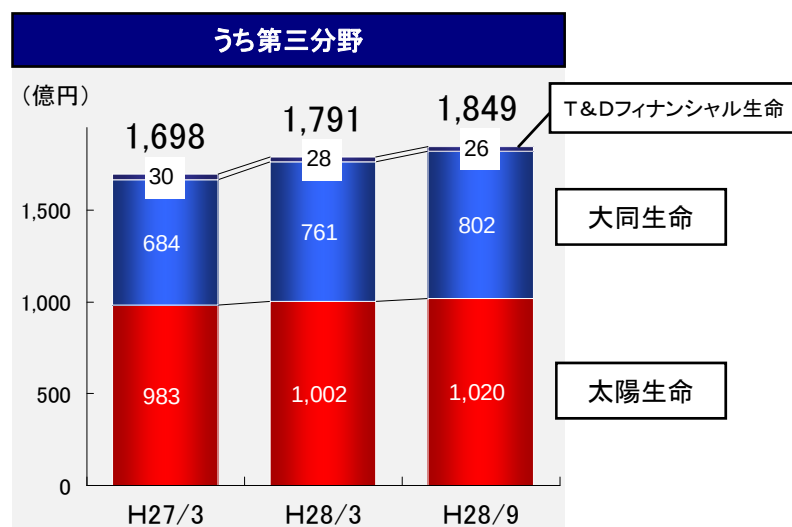
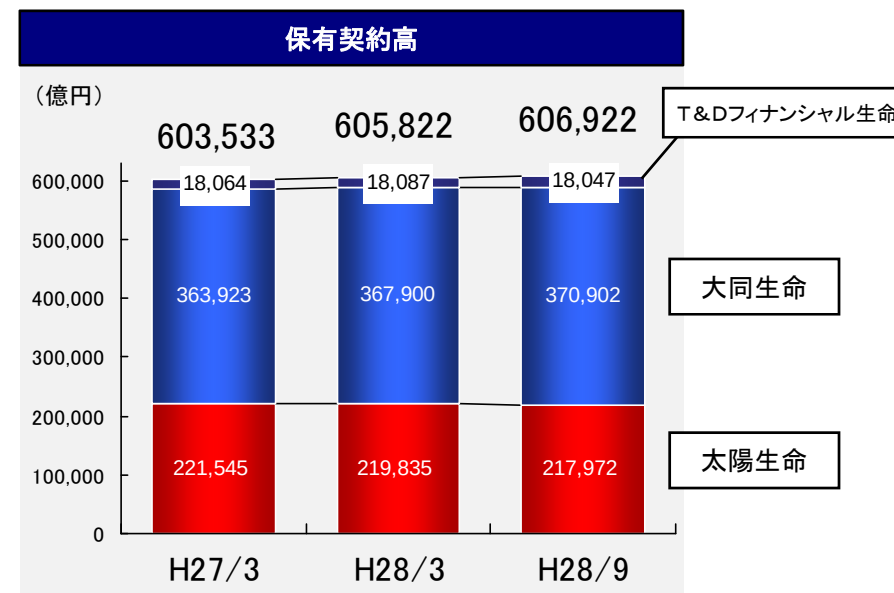
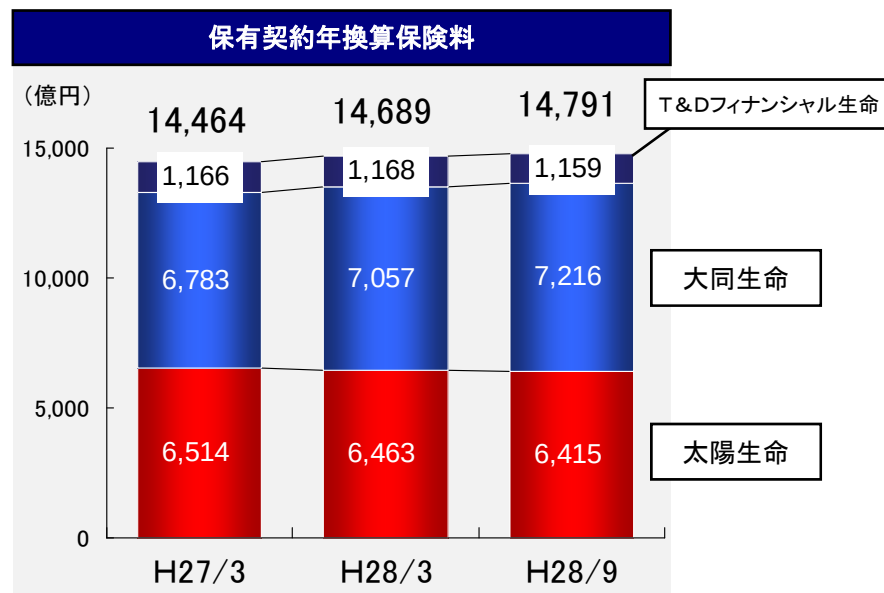
T&D保険グループ決算の概況(新契約の状況:個人保険・個人年金保険)



- 新契約年換算保険料は、金利低下により一時払商品の一部を販売抑制・休止したことにより631億円、前年同期から4.5%の減少。
- うち医療保障・生前給付保障等の第三分野は、分割払の医療・介護系商品の販売増加により138億円、前年同期から10.5%の増加。
- 新契約高は、一時払商品の一部を販売抑制・休止した一方で主力商品の販売が堅調に推移したことにより2兆9,588億円、前年同期とほぼ同水準。

* 大同生命の「Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)」の重大疾病保険金額、「Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)」の就業障がい保険金額および「介護リリーフ(無配当終身介護保障保険)」の介護保険金額を加算した新契約高は3社合算で3兆3,835億円、前年同期から0.3%の増加。

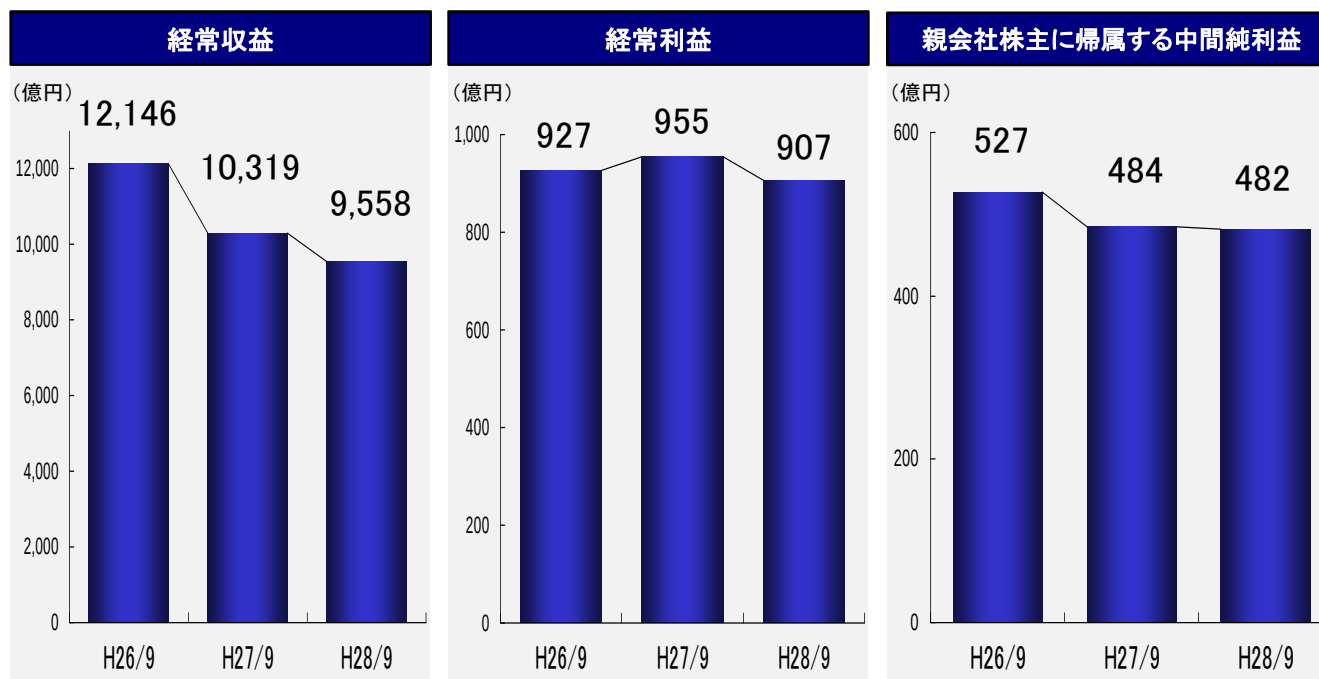
T&D保険グループ決算の概況(保有契約の状況:個人保険・個人年金保険)



- 保有契約年換算保険料は1兆4,791億円、前年度末から0.7%の増加。
- うち第三分野は1,849億円、前年度末から3.2%の増加。
- 保有契約高は60兆6,922億円、前年度末から0.2%の増加。
なお、大同生命の下記3商品の保険金額を加算した保有契約高は、四半期ベースで過去最高を更新。

* 大同生命の「Jタイプ(無配当重大疾病保障保険)」の重大疾病保険金額、「Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)」の就業障がい保険金額および「介護リリーフ(無配当終身介護保障保険)」の介護保険金額を加算した保有契約高は3社合算で63兆4,483億円、前年度末から0.7%の増加。

T&D保険グループ決算の概況(連結損益)



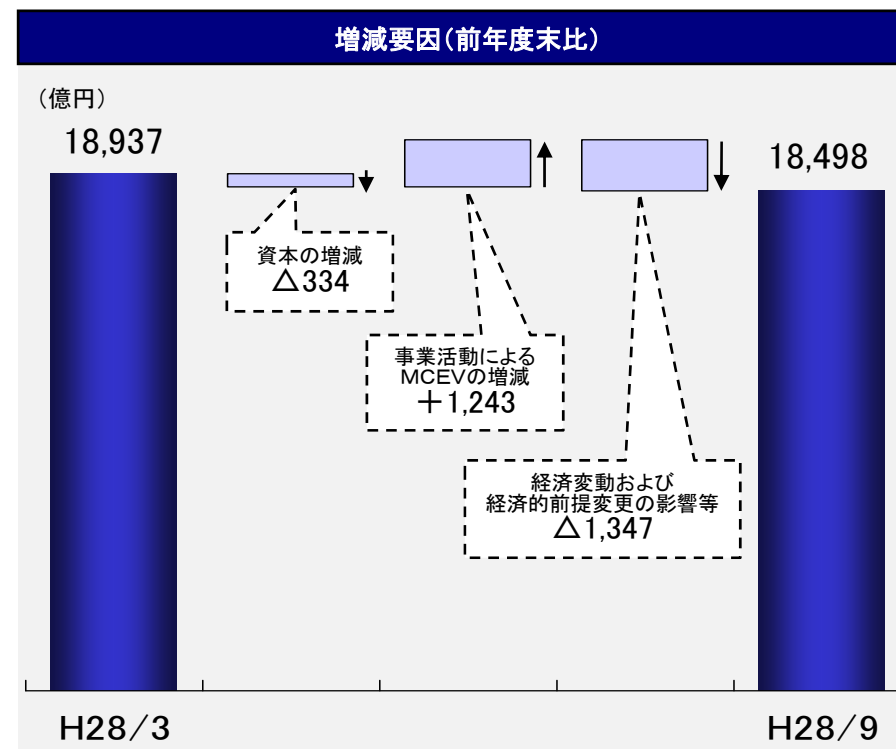
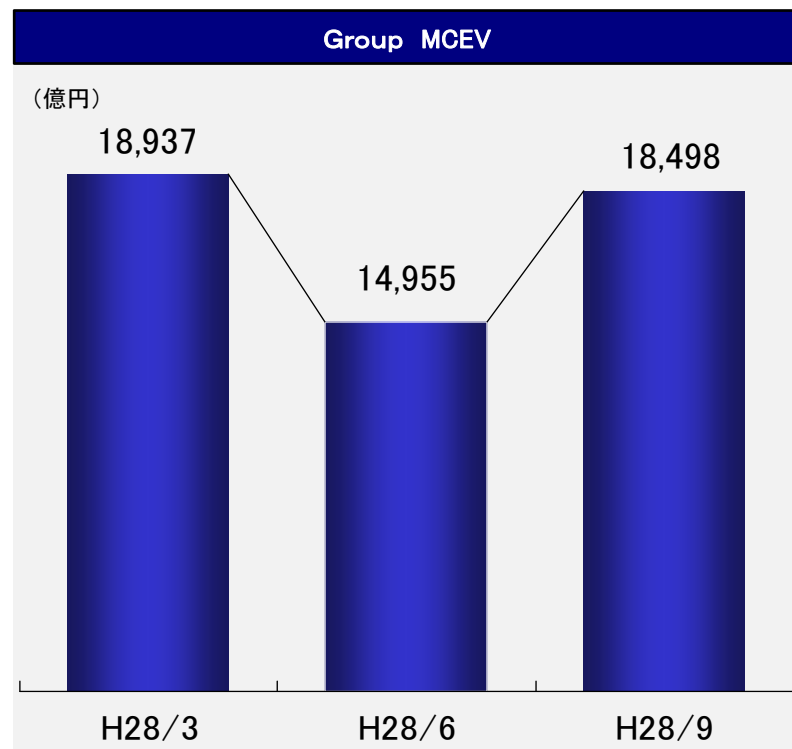
- 経常収益は9,558億円、前年同期から7.4%の減少。これは主に、金利低下に伴う一時払商品の一部販売抑制・休止や団体年金保険の保険料等収入が減少したことによる。
- 親会社株主に帰属する中間純利益は482億円、前年同期とほぼ同水準。これは主に、円高等による外国証券の利息及び配当金等収入の減少や価格変動準備金繰入額の増加等があったものの、T&Dフィナンシャル生命において、外国為替連動型の一時払終身保険の損益が豪ドル金利低下に伴い改善したこと等による。

(単位: 億円)

	T&Dホールディングス連結	
	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	9,558	△ 761 (△ 7.4%)
うち保険料等収入	7,330	△ 704 (△ 8.8%)
うち資産運用収益	1,892	+2 (+0.2%)
うち利息及び配当金等収入	1,335	△ 144 (△ 9.8%)
うちその他経常収益	334	△ 59 (△ 15.1%)
経常費用	8,650	△ 713 (△ 7.6%)
うち保険金等支払金	5,848	△ 1,177 (△ 16.8%)
うち責任準備金等繰入額	876	+296 (+51.2%)
うち資産運用費用	586	+160 (+37.6%)
うちその他経常費用	352	+8 (+2.4%)
経常利益	907	△ 47 (△ 5.0%)
特別利益	2	+1 (+245.1%)
特別損失	155	+44 (+39.8%)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	159	△ 9 (△ 5.8%)
法人税等合計	112	△ 78 (△ 41.1%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	482	△ 1 (△ 0.4%)

* 保険料等収入の3社合算は7,313億円(前年同期比△8.8%)です。

T&D保険グループ決算の概況(市場整合的エンベディッド・バリュー：MCEV[概算値])



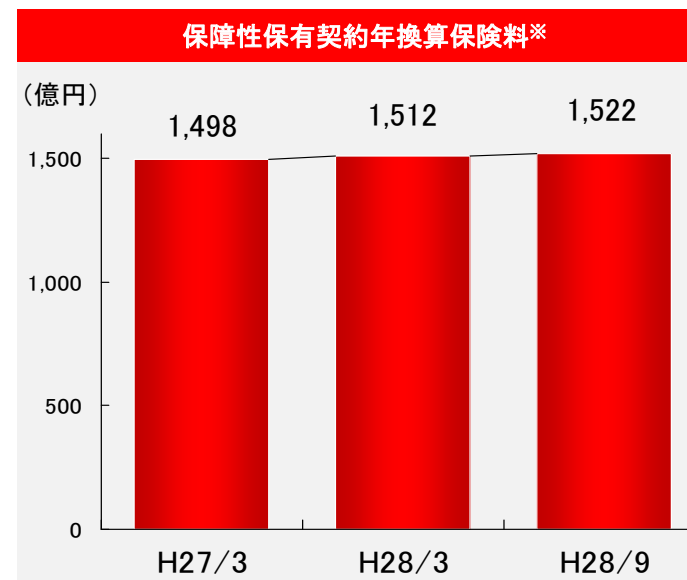
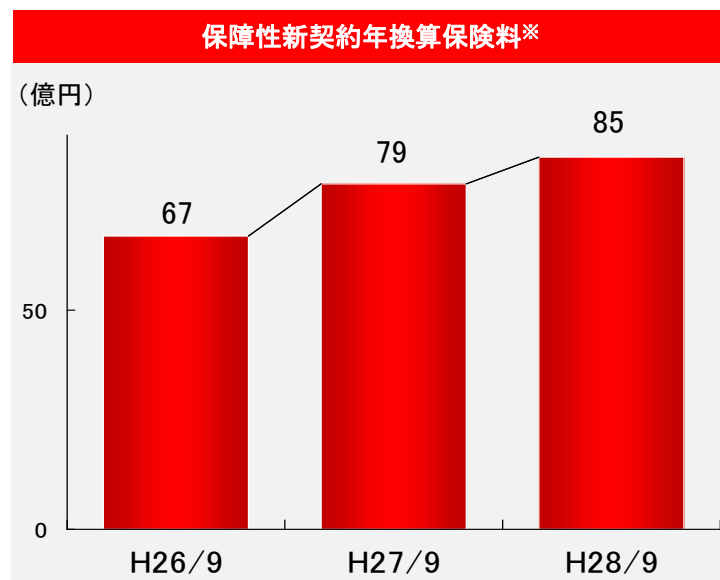
* 生命保険会社の企業価値を評価する指標の一つ「EV(エンベディッド・バリュー)」は、「貸借対照表の純資産に、価格変動準備金・危険準備金等の内部留保、時価評価されていない資産の含み損益等を加えた純資産価値」と「現時点で保有している契約から将来見込まれる利益の現在価値」を合計したものです。

- Group MCEVは1兆8,498億円、新契約の獲得や金利上昇により当第1四半期末から大幅に増加し、前年度末とほぼ同水準まで回復。
- 前年度末比では438億円の減少。株主配当・自己株式の取得による減少額が334億円、事業活動による増加額が1,243億円。一方で、金利低下をはじめとする経済変動および経済的前提変更の影響等による減少額が1,347億円。

* 四半期の数値は、一部簡易な計算前提等を用いて計算し、第三者の検証を受けていない概算値となります。

【中核生保の主要ポイントと状況(太陽生命)】

- 時代の変化を先取りした商品を開発、対面サービスを強化。保障性生活を拡販。



- 保障性生活新契約年換算保険料※は、医療・介護系商品の販売好調による第三分野新契約年換算保険料の増加等により85億円、前年同期から8.1%の増加。
- 保障性生活保有契約年換算保険料※は、過去販売した商品の満期による減少がある中で、新契約業績の好調により1,522億円、前年度末から0.7%の増加。

※ 保障性生活年換算保険料(太陽生命独自の指標)とは、年換算保険料のうち主に貯蓄系商品を除いた保険料の合計です。

※ 保障性生活年換算保険料の伸展は「EVの伸展」に大きく寄与するため、太陽生命が契約業績の中で重視する指標としています。

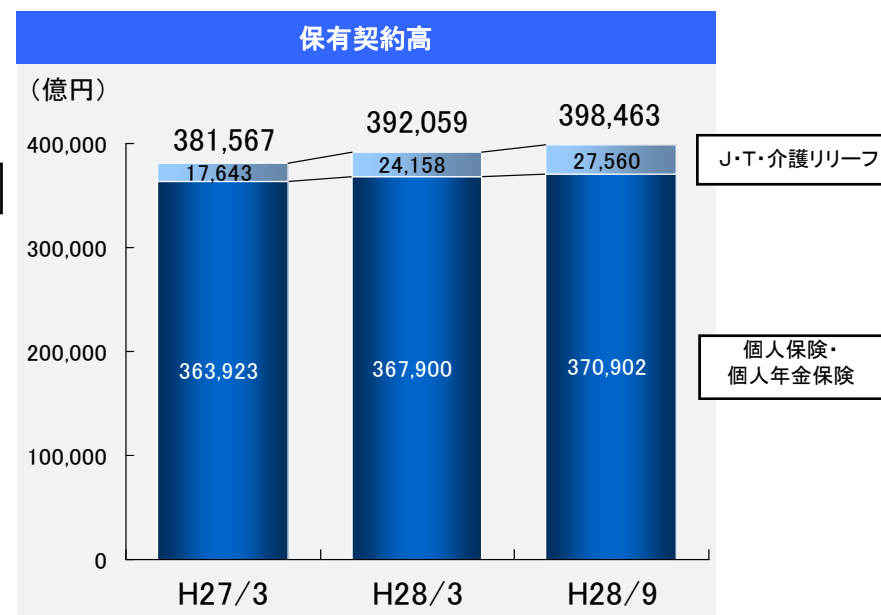
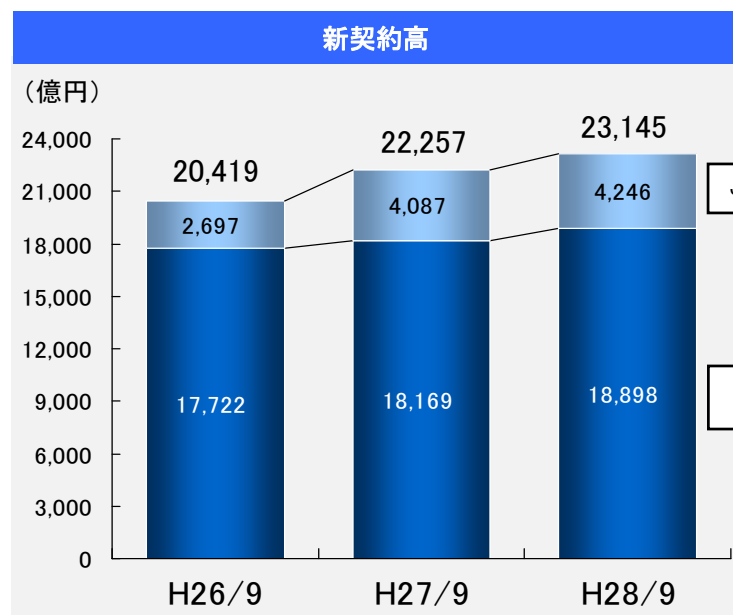
・平成28年3月に「ひまわり認知症治療保険」と「認知症治療保険」を発売。販売7ヵ月で10万件のご契約をいただいております、契約業績(特に保障性生活年換算保険料の伸展)に大きく寄与。

・平成28年4月に「かけつけ隊サービス※」を開始し、ご利用件数は半年間で1万件を超過。

※シニアのお客さまが安心、便利に給付のお手続きができるよう、専門知識のある内務員が直接お客さまやご家族のもとへ訪問し、お手続きサポートを行うサービス。

【中核生保の主要ポイントと状況(大同生命)】

- 引き続き主力の個人定期保険、就業不能保障商品(Jタイプ・Tタイプ)や介護保障商品(収入リリーフ・介護リリーフ)の販売が好調。



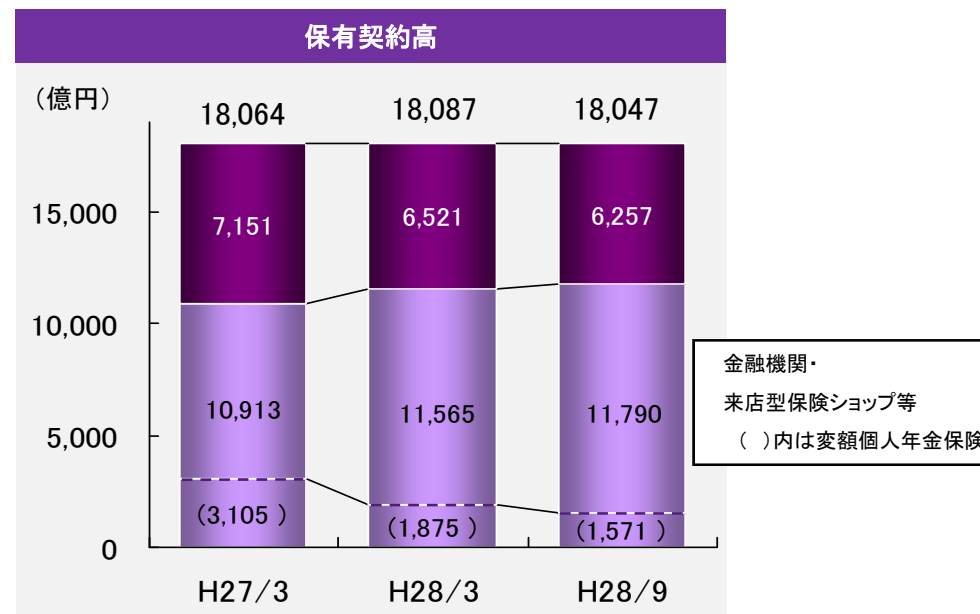
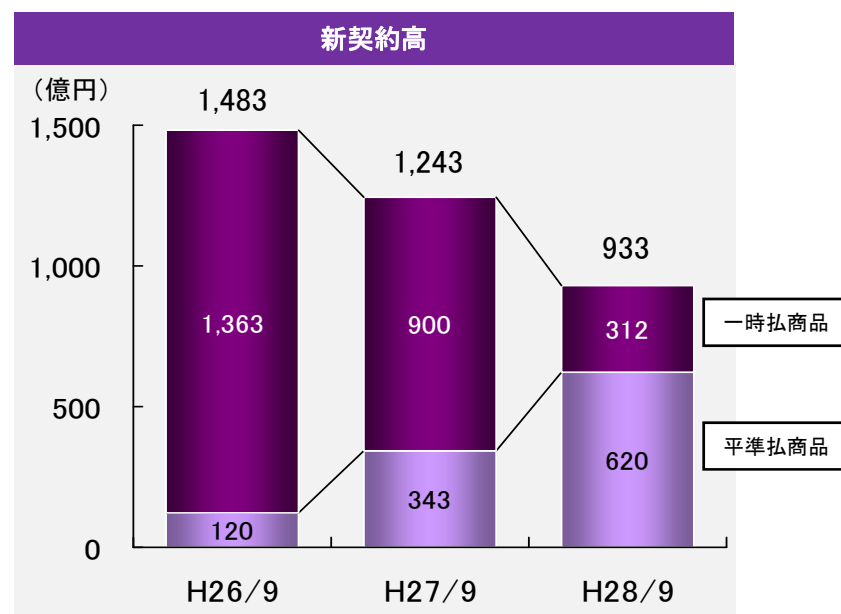
- 新契約高※は、2兆3,145億円、前年同期から4.0%の増加。これは主に、主力の個人定期保険、就業不能保障商品や介護保障商品の販売が好調なことによる。また、新契約高における就業不能保障商品および介護保障商品の占率は20.1%となり、前年同期から1.7ポイント増加。
- 保有契約高※は39兆8,463億円、前年度末から1.6%の増加。

※ 個人保険・個人年金保険の契約高に、死亡保障がないJタイプ(無配当重大疾病保障保険)の重大疾病保険金額、Tタイプ(無配当就業障がい保障保険)の就業障がい保険金額、介護リリーフ(無配当終身介護保障保険)の介護保険金額を加算した金額ベース。

- ・企業に必要な保障(標準保障額)に基づいて、死亡保障(定期保険等)に加え、就業不能保障(Jタイプ・Tタイプ)を含めた「トータルな保障のご提案活動」を推進。また、経営者の個人保障として介護保障(収入リリーフ・介護リリーフ)の推進を強化。結果、新契約高は前年同期を上回り、業績予想に対して順調に進捗。保有契約高は前年度末から純増し、好調な契約業績。
- ・引き続き、中小企業経営者のニーズにお応えできるよう、企業に必要な保障(標準保障額)に基づく死亡・就業不能時等のリスク対策としてトータルな保障の提案活動に取り組む。

【中核生保の主要ポイントと状況(T&Dフィナンシャル生命)】

- 8月の平準払商品(2商品)リニューアル効果により、平準払商品の新契約高が増加。



- 新契約高は、一時払終身保険の一部販売休止により前年同期を下回ったが、平準払商品の新契約高は前年同期から80.7%増加。
- 保有契約高は、1兆8,047億円、前年度末から0.2%の減少※。これは主に、変額個人年金保険の保有契約高の減少等による。
※ 外国為替連動型の一時払終身保険は円高の場合、保有契約高が減少します。この減少要因を除くと保有契約高は、前年度末から0.5%の増加となります。

- ・平準払商品「家計にやさしい収入保障」の販売が、8月のリニューアル効果により好調に推移し、リニューアル前との単月実績の比較で新契約高倍増。
- ・平成28年11月より一時払商品「生涯プレミアムワールド3」に安心の機能をプラス。(「目標値到達時終身保険移行特約」「介護年金支払移行特約」の取扱開始)
- ・引き続き、「商品ラインアップの多様化」「代理店販売網の拡大」「お客さまサービスの向上」を推進していく。

参考データ(契約業績:個人保険・個人年金保険)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
保有契約年換算保険料	14,791	+102 (+0.7%)	6,415	△ 47 (△ 0.7%)	7,216	+158 (+2.2%)	1,159	△ 8 (△ 0.7%)
うち第三分野	1,849	+57 (+3.2%)	1,020	+17 (+1.8%)	802	+41 (+5.4%)	26	△ 1 (△ 4.0%)
保有契約高	606,922	+1,099 (+0.2%)	217,972	△ 1,862 (△ 0.8%)	370,902	+3,001 (+0.8%)	18,047	△ 39 (△ 0.2%)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約年換算保険料	631	△ 29 (△ 4.5%)	175	+1 (+0.6%)	415	+12 (+3.1%)	39	△ 43 (△ 52.1%)
うち第三分野	138	+13 (+10.5%)	68	+9 (+15.8%)	69	+3 (+5.5%)	0	+0 (+144.3%)
新契約高	29,588	△ 44 (△ 0.1%)	9,757	△ 462 (△ 4.5%)	18,898	+728 (+4.0%)	933	△ 310 (△ 24.9%)

* 新契約には、転換による純増加を含んでおります。

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
解約失効率(契約高ベース)			2.87%	0.05ポイント上昇	3.24%	0.11ポイント低下	1.43%	0.43ポイント低下
解約失効高	18,485	△ 297 (△ 1.6%)	6,308	+50 (+0.8%)	11,918	△ 271 (△ 2.2%)	259	△ 76 (△ 22.7%)

* 解約失効率は、年換算しておりません。

参考データ(損益関係)

(単位: 億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
経常収益	9,558	△ 761 (△ 7.4%)	4,210	△ 345 (△ 7.6%)	4,706	+10 (+0.2%)	903	△ 396 (△ 30.5%)
うち保険料等収入	7,330	△ 704 (△ 8.8%)	3,090	△ 231 (△ 7.0%)	3,811	+68 (+1.8%)	411	△ 543 (△ 56.9%)
うち資産運用収益	1,892	+2 (+0.2%)	1,082	+53 (+5.2%)	759	△ 63 (△ 7.7%)	71	+10 (+17.3%)
うち 利息及び配当金等収入	1,335	△ 144 (△ 9.8%)	673	△ 71 (△ 9.6%)	633	△ 75 (△ 10.6%)	37	+2 (+6.0%)
うちその他経常収益	334	△ 59 (△ 15.1%)	38	△ 167 (△ 81.4%)	136	+5 (+4.5%)	420	+136 (+48.1%)
経常費用	8,650	△ 713 (△ 7.6%)	3,813	△ 311 (△ 7.5%)	4,268	+72 (+1.7%)	837	△ 442 (△ 34.6%)
うち保険金等支払金	5,848	△ 1,177 (△ 16.8%)	2,734	△ 678 (△ 19.9%)	2,421	△ 95 (△ 3.8%)	683	△ 405 (△ 37.2%)
うち責任準備金等繰入額	876	+296 (+51.2%)	236	+236 (+301,300.2%)	1,017	+89 (+9.7%)	0	△ 0 (△ 46.7%)
うち資産運用費用	586	+160 (+37.6%)	293	+105 (+56.1%)	212	+73 (+52.8%)	94	△ 20 (△ 18.0%)
うちその他経常費用	352	+8 (+2.4%)	168	+10 (+6.9%)	98	+0 (+0.9%)	7	△ 2 (△ 24.3%)
経常利益	907	△ 47 (△ 5.0%)	397	△ 34 (△ 8.0%)	438	△ 61 (△ 12.4%)	66	+45 (+224.4%)
特別利益	2	+1 (+245.1%)	2	+2 (+6,267.8%)	—	△ 132 —	—	— —
特別損失	155	+44 (+39.8%)	91	△ 5 (△ 5.3%)	61	+46 (+294.5%)	1	△ 0 (△ 24.6%)
契約者配当準備金繰入額 (△戻入額)	159	△ 9 (△ 5.8%)	89	△ 4 (△ 4.4%)	69	△ 5 (△ 7.4%)	△ 0	△ 0 (+32.0%)
法人税等合計	112	△ 78 (△ 41.1%)	34	△ 35 (△ 50.9%)	60	△ 87 (△ 59.0%)	15	+8 (+135.5%)
親会社株主に帰属する 中間純利益	482	△ 1 (△ 0.4%)	183	+12 (+7.4%)	245	△ 146 (△ 37.4%)	49	+37 (+302.6%)

* 1 T&Dホールディングス連結の数値については、生命保険会社3社の合算とは必ずしも一致いたしません。

* 2 保険料等収入の3社合算は7,313億円(前年同期比△8.8%)です。

* 3 大同生命の特別利益の前年同期比減少(△132億円)は主に、前年度の太陽生命への不動産売却益131億円によるものです。連結上は内部取引として消去されるため、損益に与える影響はありません。

* 4 特別損失(155億円)のうち、143億円は価格変動準備金への繰入(太陽生命:89億円、大同生命:53億円、TDF生命:1億円)です。

* 5 親会社株主に帰属する中間純利益の生命保険会社3社欄の数値は、中間純利益を記載しております。

参考データ(その他の指標等)

■ 基礎利益と順ざや額

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
基礎利益	862	△ 56 (△ 6.1%)	247	△ 59 (△ 19.5%)	493	△ 83 (△ 14.5%)	122	+86 (+246.2%)
順ざや額(△逆ざや額)	92	△ 143 (△ 60.7%)	14	△ 55 (△ 79.6%)	94	△ 88 (△ 48.2%)	△ 15	△ 0 (+2.1%)

■ ソルベンシー・マージン比率と実質純資産

	T&Dホールディングス		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率			982.8%	92.2ポイント上昇	1,386.8%	44.9ポイント上昇	1,439.4%	178.7ポイント上昇
連結ソルベンシー・マージン比率	1,238.1%	82.3ポイント上昇	992.5%	94.0ポイント上昇	1,396.9%	46.9ポイント上昇		

* T&Dフィナンシャル生命は、子会社等がないため、連結ソルベンシー・マージン比率を表示しておりません。

(単位:億円)

	T&Dホールディングス連結		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
実質純資産	28,628	△ 648	11,912	△ 599	14,129	△ 232	2,362	+79

参考データ(その他の指標等)

■ 有価証券等の差損益(一般勘定)

(単位:億円)

	3社合算		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
有価証券の差損益	14,927	△ 726	7,427	△ 665	6,058	△ 134	1,441	+72
うち公社債	9,954	+22	5,004	△ 45	4,050	+46	899	+21
うち株式	2,496	△ 453	1,170	△ 331	1,325	△ 122	-	-
うち外国証券	1,658	△ 369	1,090	△ 359	545	△ 24	23	+13
土地等の差損益	441	△ 2	148	△ 6	292	+4	-	-

* 1 有価証券の差損益は、有価証券のうち時価のあるものを記載しております。

* 2 土地等の差損益は、原則として鑑定評価額(重要性の低い物件等については公示価格等)をもとに算出しております。

■ 市場整合的エンベディッド・バリュー(MCEV) [概算値]

* 四半期の数値は、一部簡易な計算前提等を用いて計算し、第三者の検証を受けていない概算値となります。

(単位:億円)

	T&D保険グループ全体 (Group MCEV)		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比	当第2四半期末	前年度末比
MCEV	18,498	△ 438	7,078	△ 178	10,426	△ 354	929	△ 5

* Group MCEVは「生命保険事業のMCEV(1兆8,232億円)」と「生命保険以外の事業に係る純資産(266億円)」の合計額です。

(単位:億円)

	T&D保険グループ全体 (3社合算)		太陽生命		大同生命		T&Dフィナンシャル生命	
	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比	当第2四半期累計	前年同期比
新契約価値	304	△ 220	135	△ 40	178	△ 143	△ 9	△ 36

平成29年3月期 通期業績予想

■ T&Dホールディングス連結

平成28年5月13日公表分から変更ありません。

(単位: 億円)

	平成28年3月期実績	平成29年3月期予想
経常収益	20,259	17,500 程度
経常利益	1,714	1,640 程度
親会社株主に帰属する 当期純利益	725	730 程度

	平成28年3月期実績	平成29年3月期予想
1株当たり年間配当	30円	30円(うち中間配当15円)

なお、上記の前提となる生命保険会社3社(単体)の平成29年3月期の通期業績予想は次のとおりです。

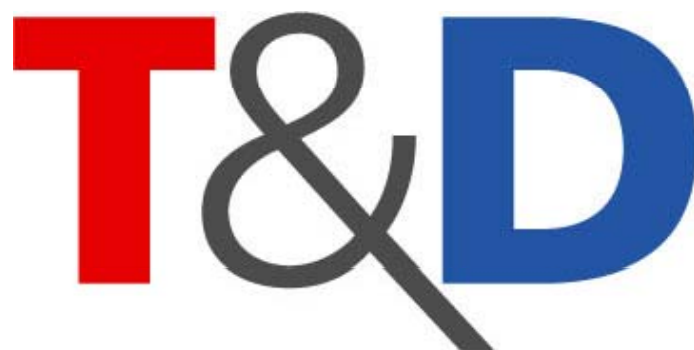
(単位: 億円)

	太陽生命	大同生命	T&Dフィナンシャル生命
経常収益	8,000 程度	9,000 程度	1,700 程度
経常利益	740 程度	880 程度	10 程度
当期純利益	290 程度	430 程度	10 程度

* 連結と生命保険会社3社合計との差額は、3社以外の連結子会社ならびに連結会社相互間の調整等によるものです。

※実際の業績は、今後様々な要因によって、上記業績予想と大きく異なることがあります。

(余 白)



T&D保険グループ

【お問合せ先】

株式会社T & Dホールディングス	広報部 川俣・勝呂	TEL 03-3272-6115
太陽生命保険株式会社	広報課 松島	TEL 03-3272-6406
大同生命保険株式会社	広報課 平本	TEL 03-3272-6206
T & Dフィナンシャル生命保険株式会社	広報課 高橋	TEL 03-6745-6808